

《教養科目》

科目名	くらしと法律（日本国憲法）				
担当者氏名	菅野 仁紀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

本講義は、憲法の基礎にある近代立憲主義の考え方、統治機構に関する基本事項および基本的人権の保障を扱います。

日本国憲法で保障されている人権とは何か、国の政治が実際にどのように行われているのか等について、学説と重要判例、さらに近時の事件・問題等を通して学習します。

また、アクティブラーニングの一環として、講義内容に関するレポートを作成し、学習内容の理解を深めます。

《授業の到達目標》

(1) 憲法とは何か、日本国憲法とは何かを理解し、その仕組みと基本原理（人権保障および権力分立等）を説明できる。

(2) 実際の社会問題や身近な事例を法学的かつ憲法学的な視点で考えるための知識や技術を身につけ、それらの問題や事例に関連づけ、適用できる。

(3) これらを通して、自立・自律した市民としての批判的思考力を身につけ、表現できる。

《成績評価の方法》

期末試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）とし、総合的に評価します。60点以上を合格とします。

なお、欠席回数が授業を実施した回数の3分の1を超えた場合には、成績評価の対象としません。

《テキスト》

テキストは特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。

《参考図書》

芦部信喜〔高橋和之補訂〕『憲法〔第8版〕』（岩波書店・2023）

斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂・2022）

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50!〔第2版〕』（有斐閣・2020）

《授業時間外学習》

(1) 法律や憲法に関わるニュースや身近な事例を常に意識しておくこと。(2) 各授業に参加するにあたり、授業計画の学習内容欄に記載した内容を中心に、学習テーマや自分の興味関心のある問題について、参考書等を使用してまとめること(2時間程度)。(3) 授業後は、レジュメを中心に学説・判例等の要旨・論点を授業ノートにまとめること(2時間程度)。

《課題に対するフィードバック等》

小テストの解説やレポートの講評は、授業内に適宜実施します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法・法律とは何か	日常生活における法、法と道德の関係、法の仕組み 〔時間外学習〕日常生活における法について、具体的な経験に基づいてまとめること
2	憲法とは何か	近代立憲主義と社会契約論、憲法の目的 〔時間外学習〕近代立憲主義とは何か、その目的についてまとめること
3	統治機構(1) 権力分立、国会・内閣	権力分立の意味、国会・内閣の役割 〔時間外学習〕権力分立とは何か、その歴史的背景と特徴についてまとめること
4	統治機構(2) 裁判所・違憲立法審査権	裁判所の役割、違憲立法審査権の特徴・機能 〔時間外学習〕司法権の意味、違憲審査制の特徴と機能についてまとめること
5	国民主権と天皇制	主権の意味、日本の天皇制の特徴 〔時間外学習〕国民主権の意味、象徴天皇制と国事行為についてまとめること
6	平和主義と戦争放棄	平和主義と戦争放棄、個別的自衛権と集団的自衛権 〔時間外学習〕憲法9条の意義、憲法9条をめぐる学説についてまとめること
7	基本的人権の原理	基本的人権の内容・範囲とその限界 〔時間外学習〕基本的人権の制約原理について学説についてまとめること
8	包括的基本権	幸福追求権の意味・範囲と新しい人権 〔時間外学習〕幸福追求権の意味と範囲についてまとめること
9	法の下での平等	憲法における平等の意味、許される区別と許されない差別 〔時間外学習〕「等しいもの」を「等しく」扱うとはどういうことかまとめること
10	人身の自由	奴隷的拘束・苦役からの自由と適正手続の保障 〔時間外学習〕「適正手続の保障」とは何か、その起源と意義についてまとめること
11	精神的自由権(1) 思想・良心の自由	思想・良心の自由の特徴と意味 〔時間外学習〕「思想・良心の自由」について、歴史的経緯に触れてまとめること
12	精神的自由権(2) 信教の自由・政教分離	信教の自由、国家(政治)と宗教との関わり 〔時間外学習〕「目的・効果基準」について、判例を挙げてまとめること
13	精神的自由権(3) 表現の自由	表現の自由の意義・価値と審査方法 〔時間外学習〕表現の自由の優越的地位について、学説を挙げてまとめること
14	経済的自由権(職業選択の自由など)	職業選択の自由、消極目的規制と積極目的規制 〔時間外学習〕「規制目的二分論」について、2つの判例を挙げてまとめること
15	社会権(生存権)	社会権の特徴、生存権の必要性・歴史性と権利性 〔時間外学習〕生存権の権利性をめぐる学説について、判例を挙げてまとめること

《教養科目》

科目名	情報処理				
担当者氏名	大野 譲太郎				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

情報化社会の進展に伴い情報倫理や基本的な情報処理の習得は必須の教養と言える。情報倫理に関しては、情報機器を扱う際発生するリスクを理解し、一般的に施されている情報セキュリティポリシーを遵守出来るようにする。また、多岐に渡る情報処理の分野において、特に将来利用する機会が高いであろう文章処理ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使った情報処理技術向上を目指すことが本講義の目的である。

《授業の到達目標》

情報倫理 : インターネット利用の際一般的に起こりうるトラブルを未然に防ぐ適切運用能力を身につける
文章処理 : 日本語の入力および文書処理能力を身につける(ビジネス文章作成)
表計算ソフト: 情報処理能力、コンピュータ活用能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中の課題の進捗(70%)小テスト(30%)を総合的に判断する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

日本語ワープロ検定試験模擬問題集 日本情報処理検定協会、
情報処理技能検定試験表計算模擬問題集日本情報処理検定協会

《参考図書》

情報倫理ハンドブック noa出版

《授業時間外学習》

処理速度向上のためタイピング練習や授業中の内容を復習することが望ましい。
本授業では15時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業内講評やファイルサーバー内でフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報倫理	著作権、個人情報の取り扱い、インターネットコミュニケーションの留意点、パスワード管理など。準備学習：一年次に行った内容を復習していることが望ましい
2	基本的な表計算ソフトの活用(1)	TAB、SHIFT、ENTER、CTRLキーの活用、セルの書式設定、オートフィルなど 準備学習：一年次に行った表計算の内容を復習していることが望ましい
3	基本的な表計算ソフトの活用(2)	オートサム、罫線、基本的な計算、AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数など 準備学習：前回の課題を復習することが望ましい。
4	表計算ソフトを用いた実務(1)	検定問題から実務を想定した表計算ソフトでの事務処理 準備学習：前回の課題を復習することが望ましい。
5	表計算ソフトを用いた実務(2)	検定問題から実務を想定した表計算ソフトでの事務処理 準備学習：テキスト(Excel)の内容(1P~15P)を予習しておくことが望ましい
6	プレゼンテーションとPowerPoint	プレゼンテーション技術に関する基本的概要と、それに適したPowerPointの使い方 準備学習：一年時に行ったプレゼンテーションの復習を行うことが望ましい。
7	基本的な文章処理ソフトの活用	配置と基準、均等割り付け、網かけ、囲み線、下線、フォント、色分けなど 準備学習：一年次に行った文章処理ソフトウェアの内容を復習していることが望ましい
8	ビジネス文章作成(1)	文章体裁の整え方表の作成、表の網かけ、セルの結合など表を用いたビジネス文章作成 準備学習：前回の授業内容を復習することが望ましい。
9	ビジネス文章作成(2)	切り取り線などを用いた高度なビジネス文章作成 準備学習：テキスト(Word)の内容を予習しておくことが望ましい
10	文章処理ソフトを用いた実務	検定問題から実務を想定した文章処理ソフトでの事務処理 準備学習：テキスト(Word)の内容を予習、復習しておくことが望ましい
11	順位付けと判断文	RANK関数、IF関数、並び替え、表示形式の変更など 準備学習：excel基本問題(授業内配布)を復習していることが望ましい
12	端数処理と判断文	ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、複数のIF関数 準備学習：テキスト(Excel)の内容を予習、復習しておくことが望ましい。
13	データ分析と表検索	実際のデータベースの概念、VLOOKUP関数 準備学習：テキスト(Excel)の内容を予習、復習しておくことが望ましい。
14	論理関数	AND関数、OR関数 準備学習：テキスト(Excel)の内容を予習、復習しておくことが望ましい。
15	総復習	表計算ソフト、文章処理ソフトの処理速度と理解度を測る小テスト 準備学習：授業内で課題と作成したファイルを確認しておくことが望ましい

《教養科目》

科目名	情報社会と経営				
担当者氏名	大野 満奈				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

ITの発展と相まって、多種多様な新型金融商品の登場、企業間競争の激化、および基幹産業の規制緩和等を背景として、経営環境が著しく変化を遂げているなか、経営者は、不確実性のもと意思決定に有用な情報を、そして、企業外部の一般投資家は企業とのコミュニケーションに主体的に参加すべく財務情報のディスクロージャーを要求する。ここではそのような情報社会における経営の仕組みと現状を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 情報と意思決定の関係についての理解を深め、社会の成員として活動するうえで必要とされる日本の経営に関する基礎的仕組みと用語を説明できる。
2. 毎回出される課題を時間内に提出できる。
3. 経営と情報社会に関するプレゼンテーション能力を身につける。

《成績評価の方法》

レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中に配付するレジメをテキストとして使用する。

《参考図書》

日本経済新聞 日本経済新聞社
渡辺裕巨他編著「新検定簿記ワークブック 3級」中央出版社

《授業時間外学習》

講義のテーマに基づいた時事問題については特に注目し、日々の社会の動きを理解するように心掛けること。次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。本授業では15時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

プレゼンテーションについて授業内でその都度コメントし、提出レポートに関しては提出の翌週にコメントを書き込み、返却することでフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本的経営の特徴	終身雇用、年功序列型賃金、労使関係、企業間の系列関係、 我国企業経営の現状 【時間外学習】日本的経営を下調べしておくこと
2	企業の資金調達	企業の資金調達の仕組み・他人資本・自己資本・資金の具体的運用形態 【時間外学習】企業の資金調達の仕組みを下調べしておくこと
3	高度情報通信社会と経営	インターネットの普及と社会変化・IT革命以降の企業 【時間外学習】IT革命を下調べしておくこと
4	ディスクロージャー制度	企業の情報開示とその手段・財務諸表の種類と見方 【時間外学習】財務諸表を下調べしておくこと
5	企業会計情報システム	複式簿記と会計情報システム・補助簿の作成 【時間外学習】複式簿記を下調べしておくこと
6	日本企業の歩み(1) 戦後～高度成長期	経済復興期、高度成長期 【時間外学習】経済復興期を下調べしておくこと
7	日本企業の歩み(2) バブル期を中心に	低成長期、バブル経済、長期不況、21世紀の企業経営 【時間外学習】バブル経済を下調べしておくこと
8	企業の社会的責任(1)	あらゆるステークホルダーからの要求に対して、適切な意思決定をする責任 【時間外学習】企業の社会的責任を下調べしておくこと
9	企業の社会的責任(2)	企業の社会的責任についての時事問題に関するプレゼンテーション 【時間外学習】企業の社会的責任に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておく
10	製造物責任法(1)	あらゆるステークホルダーからの要求に対して、適切な意思決定をする責任 【時間外学習】企業の社会的責任を下調べしておくこと
11	製造物責任法(2)	製造物責任法についての時事問題に関するプレゼンテーション 【時間外学習】製造物責任法に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておく
12	個人情報と経営	個人情報の適切な管理 【時間外学習】個人情報保護法を下調べしておくこと
13	環境と経営(1)	環境経営からサステナビリティ経営へ 【時間外学習】サステナビリティ経営を下調べしておくこと
14	環境と経営(2)	環境経営とサステナビリティ経営に関するプレゼンテーション 【時間外学習】環境と経営に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておく
15	時事問題を考える	時事問題に関するプレゼンテーション・ディスカッション(グループ討議) 【時間外学習】時事問題に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておくこと

《教養科目》

科目名	倫理学				
担当者氏名	浜田 郷史				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

倫理学は、皆さんがよりよく生きるために役立つ哲学の実践部門です。よりよく生きるためには、「よさ」の本質を知る（哲学する）必要があります。たとえば、なされた悪に対して報復せずゆるすべきか、転売行為は非難されるべきか、誰も見ていないところでも道徳的に振る舞ったほうがよいのか、などを考えてみましょう。「正義」「仕事」「ケア」「悪」「共感」「不幸」などについて、毎回「哲学対話」を行います。

《授業の到達目標》

(1) 倫理学の基礎知識を説明できる。(2) 自分の倫理観を知り、他者の倫理観にも関心を向けることができる。(3) 倫理的葛藤に際して、根拠のある意志決定ができる。

《成績評価の方法》

全体で100%（総点100点）とし、「筆記試験60%」、「授業への関心・意欲・態度40%」の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは特に定めませんが、毎回プリントを配布する。

《参考図書》

平尾昌宏『ふだんづかいの倫理学』、晶文社、2019年。

《授業時間外学習》

本授業では29時間の時間外学習を必要とする。授業後は配付資料等をもとに要点を復習しておく。対話の前には、テーマについて考えておくことが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

授業の最後に質問を受ける。次の授業で全体で解説してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	倫理学とは何か	「倫理学」とは何だろうか。「哲学対話」を通じて、普遍化テストを学ぶ。[予習/復習]倫理学的な言葉づかいを意識しながら人と対話する。
2	不幸論・共感論	苦しみたくないが、苦しんでいる友には寄り添いたい。「不幸」と「共感」について考え、その本質を探究する。[予習/復習]不幸に対する考え方は変わるだろうか。
3	正義論・正義の分類	正義は必要か？「正義」の基本的な意味を分析し、身近な例に当てはめる。[予習/復習]アリストテレスの正義論に基づき、自らの属している社会を分析・分類する。
4	正義と共感	「正義」と「共感」のジレンマについての文学作品をいくつか紹介したのち、望ましい態度を対話する。[予習/復習]授業で紹介するいくつかの倫理的ジレンマを解く。
5	悪の倫理学	「悪」と「ゆるし」についての哲学・文学をいくつか紹介したのち、究極的な悪について意見を交換する。[予習/復習]最大の悪とは何か？考え方は変わるだろうか。
6	ケアの倫理学	「ケア」と「脆弱性」について対話し、対人援助職にとって望ましい態度や倫理的指針を問う。[予習/復習]ケアを行う際の注意点についてまとめる。
7	買い物物の倫理学	「賢い買い物」「よい仕事」について対話する。ビジネス倫理から買うことや働くことの意味を探る。[予習/復習]「よい仕事」の条件を考え、まとめてくる。テスト対策。
8	いのちの倫理学/試験	これまでの学習成果をふまえて、私たちの「いのち」の繋がりについて考察する。後半は筆記試験。[予習/復習]人間として生きることが持つ課題について考察する。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《教養科目》

科目名	実用英語（食物調理英語）				
担当者氏名	ロス マシュー デビド ケシー				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

レストランやキッチンで調理される料理が、さまざまな文化的背景を持つ人々に提供されていることを理解しておくことは、将来の職場において大いに役立つことでしょう。世界の多くの人々は、食事に関して、特定の制限や嗜好を持っています。本講義を受講する学生は食品を消費する人々のさまざまなニーズと関心に対応するために英語を学び、実践していきます。

《テキスト》

その都度印刷して配布します。

《参考図書》

その都度指示します。

《授業の到達目標》

- (1) レストランやキッチンでの食事に関連する語彙を列挙できる
- (2) 食べ物や料理にまつわる日本の文化を英語で説明することができる
- (3) 英語を使ってキッチンに関する重要なアイデアやツールを特定することができる
- (4) 食事体験の基本的なルールと手順を述べることができる
- (5) 食事制限とその存在理由を列挙できる

《授業時間外学習》

- (1) 学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
- (2) 日記を書くこともいい方法である。
- (3) 英検を受験して熟達度を測る。
- (4) 一時間程度の宿題が出される

《成績評価の方法》

75% プレゼンテーション
15% 参加態度
5% 初回試験
5% 期末試験
総合評価し、60点以上を合格とする

《課題に対するフィードバック等》

毎回の提出課題にコメントし、次回講義にてフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導方針、学び方、自己紹介	(授業内容) 授業の受け方、英語の学び方、英語での自己紹介 (時間外学習) 英語での自己紹介を書いてくる。
2	My favorite dish 1	(授業内容) 好きな食事を説明 (時間外学習) プレゼンテーションの準備
3	My favorite dish 2	(授業内容) 好きな食事の料理のプレゼンテーション (時間外学習) Vocabularyを覚えてくる
4	Menus 1	(授業内容) メニューの案内と人気のある食事 (時間外学習) メニューの作り方の研究
5	Menus 2	(授業内容) 特別な注文 (時間外学習) プレゼンテーションの準備
6	Ordering in restaurant	(授業内容) 注文する時のプレゼンテーション (時間外学習) Vocabularyを覚えてくる
7	Table manners	(授業内容) 予約とマナー (時間外学習) 外国での食事のマナー調べておく
8	Diet restrictions	(授業内容) アレルギーや宗教上や倫理上などの食事制限 (時間外学習) プレゼンテーションの準備
9	Serving meals	(授業内容) 注文時の受け答えのプレゼンテーション (時間外学習) Vocabularyを覚えてくる
10	Buying ingredients and tools	(授業内容) 電話対応、助数詞、調理用具 (時間外学習) 電話での英会話を調べおく
11	Kitchen layout 1	(授業内容) 電話での会話、厨房の器具 (時間外学習) キッチンレイアウトのプレゼンテーションの準備
12	Kitchen layout 2	(授業内容) グループのごとに作成したプレゼンテーション (時間外学習) キッチンでのVocabularyを覚えてくる
13	Washoku in English 1	(授業内容) 材料を英語で説明する (時間外学習) 和食の研究をしておく
14	Washoku in English 2	(授業内容) 和食を英語で説明する (時間外学習) 和食のプレゼンテーションの準備
15	Washoku in English 3	(授業内容) 英語プレゼンテーション (時間外学習) プレゼンテーションの準備